

2012年5月期（第26期） 決算報告

2012年6月29日
株式会社ウェザーニューズ

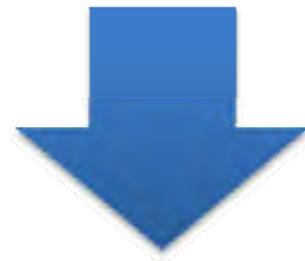


「健全性」に重きを置いた第三成長期の最終年。
革新的なインフラに積極的に取り組みながら、重点事業
が成長し、対前期比**増収増益**。

(百万円)

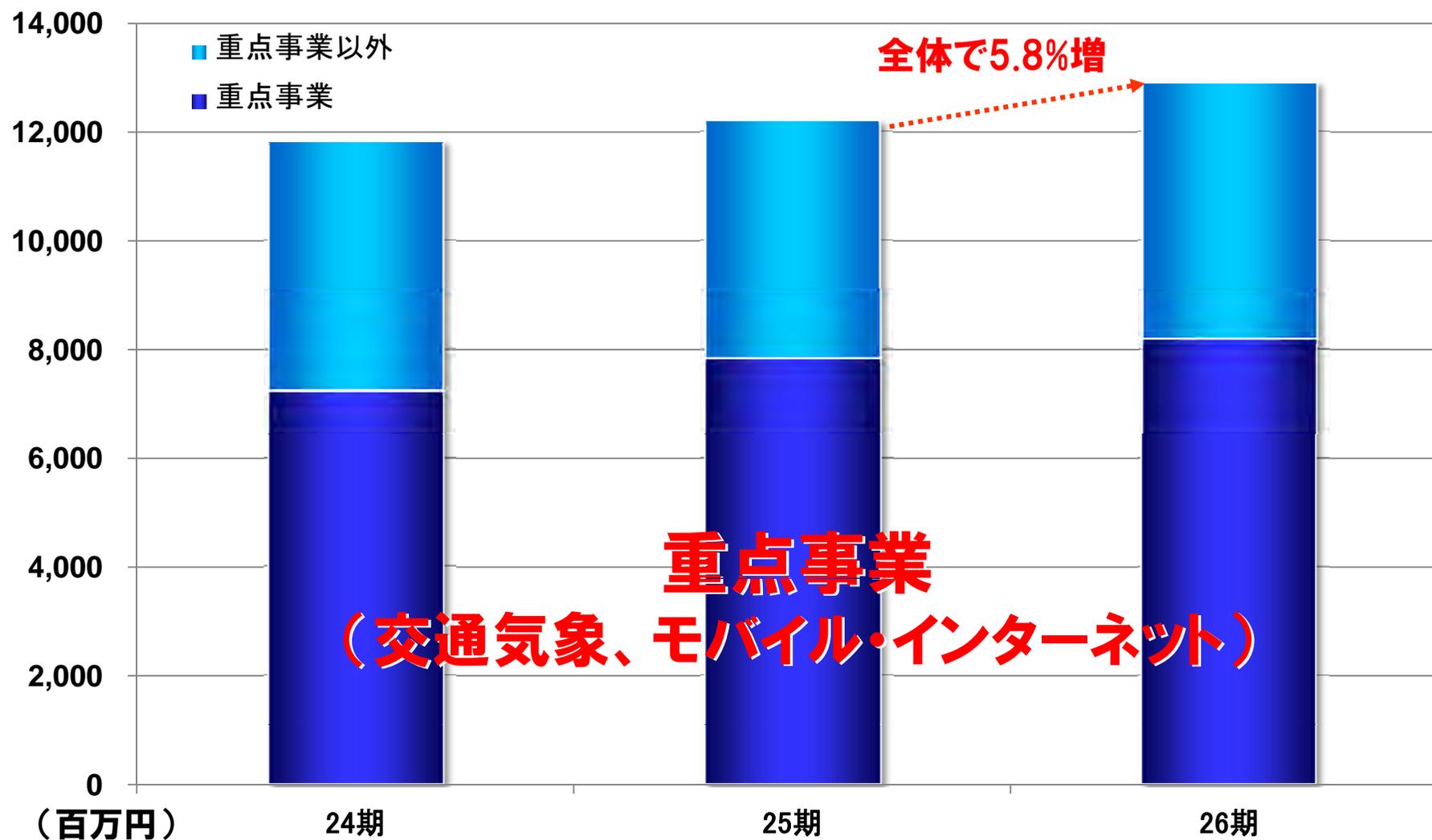
	第25期 (10.06~11.05)	第26期 (11.06~12.05)	増減
売上高	12,200	12,911	711
(B to B 法人向け市場)	(6,033)	(6,241)	(208)
(B to S 個人向け市場)	(6,166)	(6,670)	(504)
営業利益	2,647	2,903	256
経常利益	2,591	2,788	197
純利益	1,602	1,719	117

当社の経営理念
高貢献、高収益、高分配

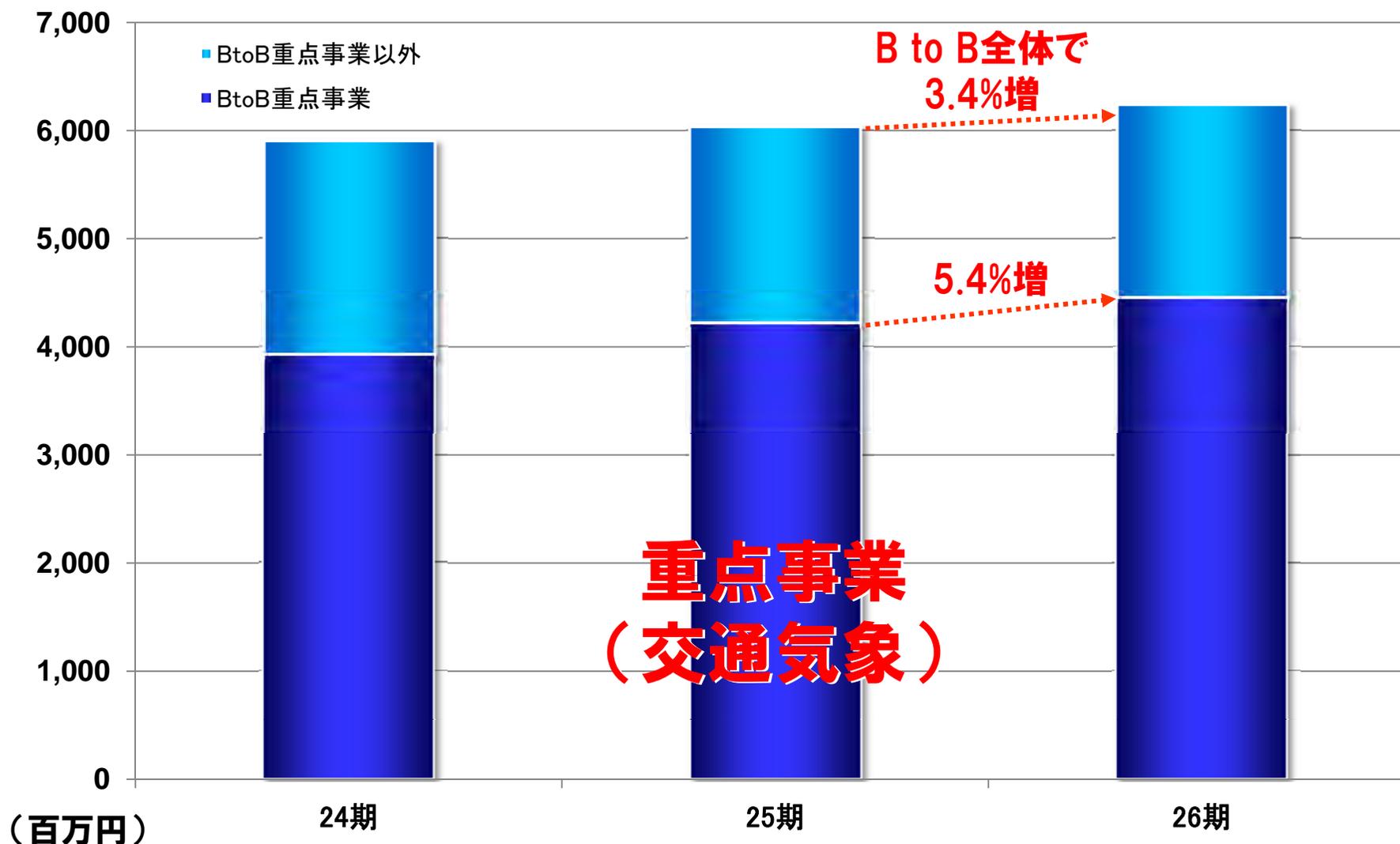


当期末配当25円、年間配当40円に増配

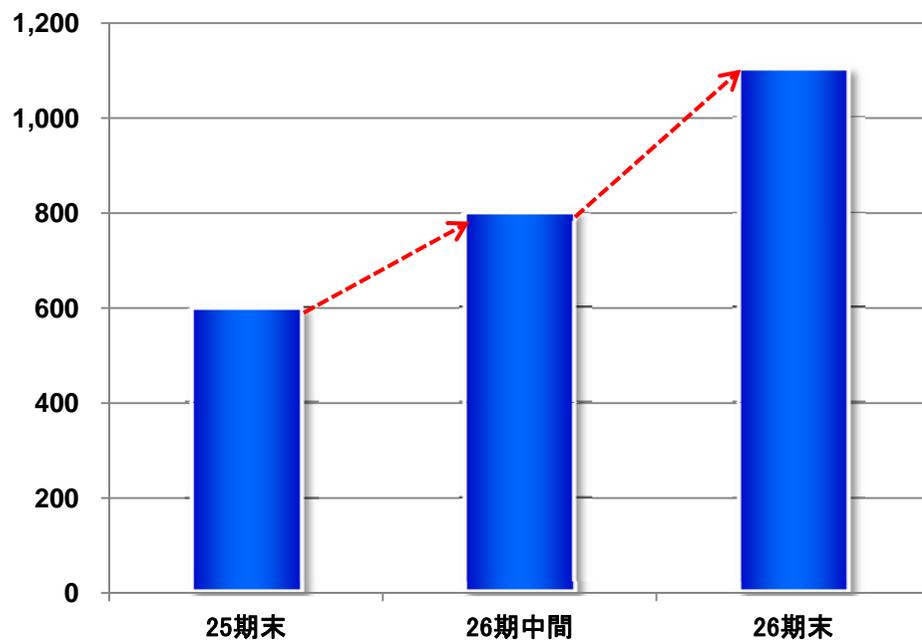
売上は全体で5.8%増



重点事業(交通気象)が前年同期比5.4%成長し、
B to B全体で3.4%成長。



運航を最適化するOSR (Optimum Ship Routeing) サービスが日本・アジアを中心としたコンテナ船、自動車船、ばら積み船にも拡大。



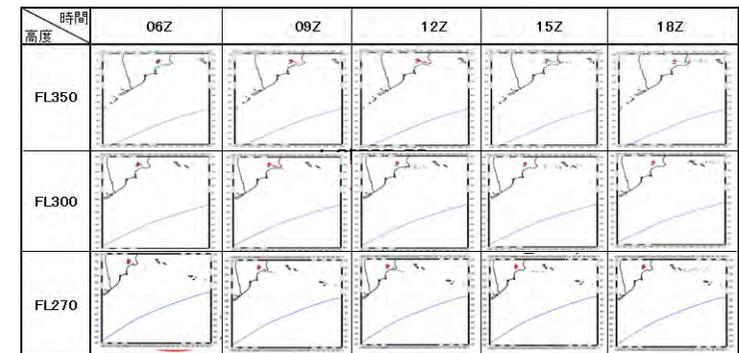
【OSRサービス提供隻数】



【26期からの新規顧客・サービス】

26期通期レビュー：空の交通気象(航空気象)

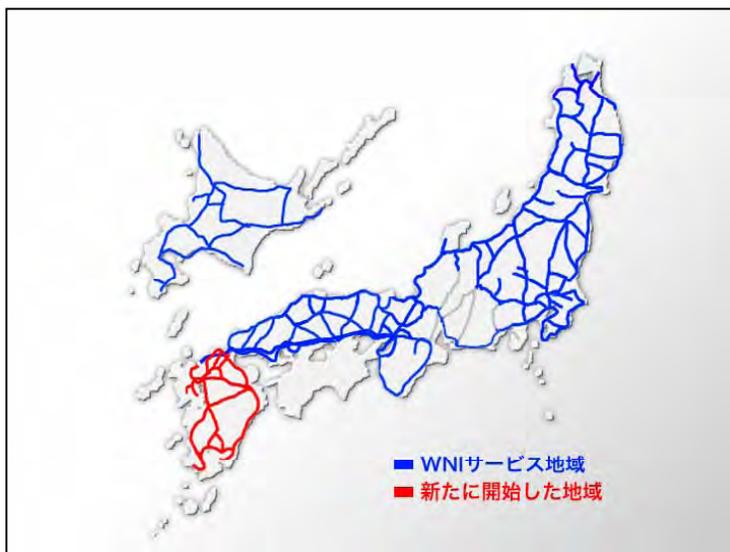
- 中国五大航空の一つ厦門航空、LCC(Low Cost Carrier)のジェットスター・ジャパンなどの新規顧客へのサービス提供を開始。
- 既存の中国の航空会社に新規サービスメニューの追加。



Airspace Critical Operation Support
航空路上に甚大な影響を及ぼす気象コンテンツ提供、地象現象が運航に与える影響とその対応策の提供

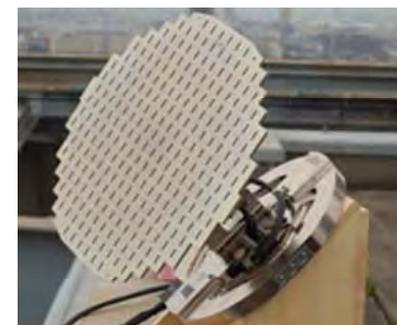
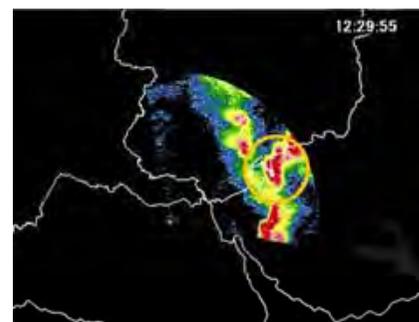
- 鉄道気象は、新サービス(運行計画支援、作業状況把握など)を新規顧客に提供開始。
- 道路気象は、新たな市場のテーマ(津波、竜巻、火山など)に対して、革新的なインフラ・技術を用いたサービスを展開

鉄道気象



- JR東日本運輸車両部
- JR東海道新幹線
- JR九州
- 東京都交通局

道路気象



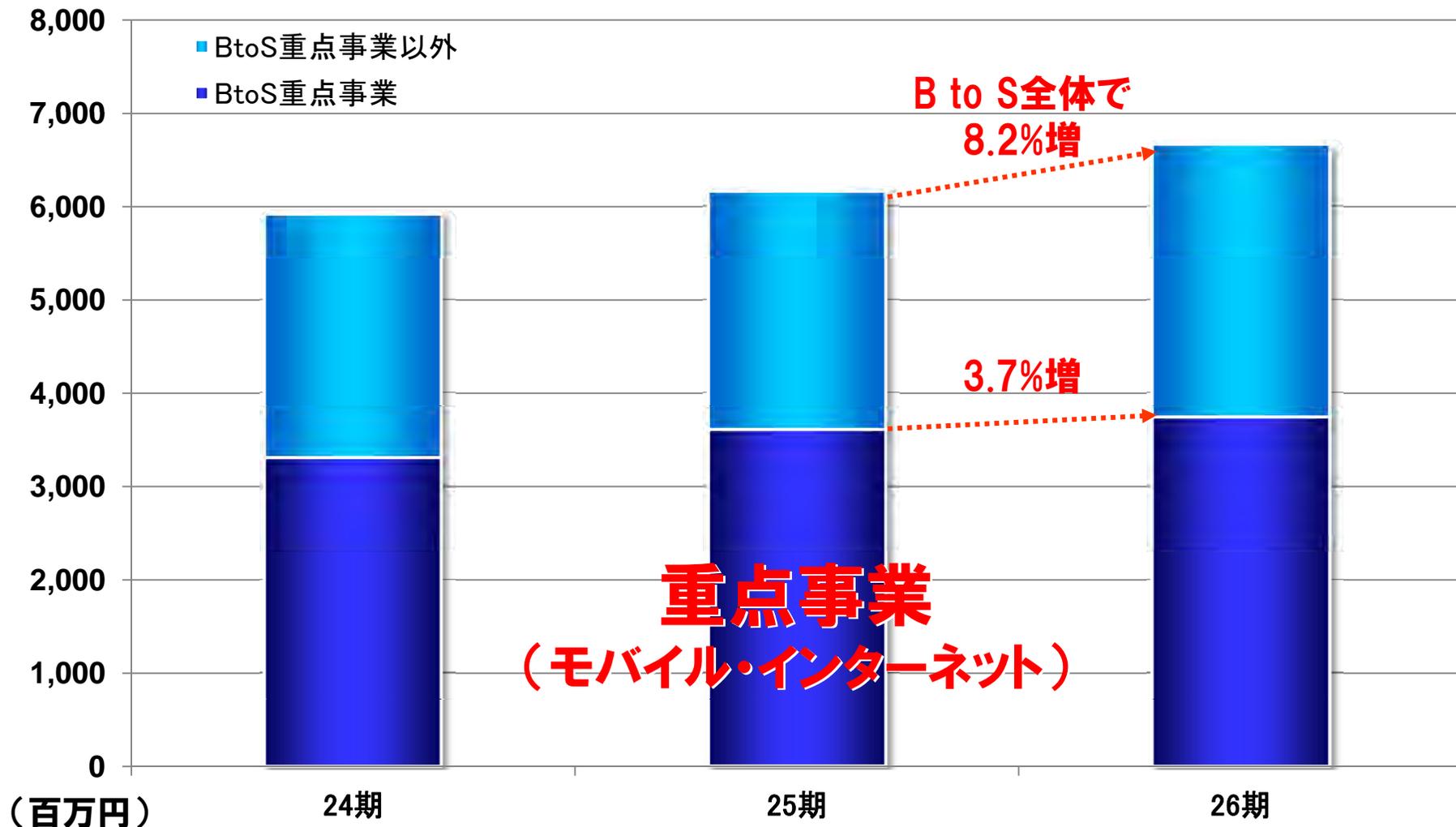
WITHレーダーを利用した竜巻対策



TSUNAMIレーダーを利用した津波対策

26期通期レビュー：B to S市場

モバイル・インターネットにおいては3.7%増。スマートフォンへの移行に伴う有料メニューの充実、地上波デジタル放送への完全移行に伴う新しいサービスの提供により、B to S売上全体は8.2%増。



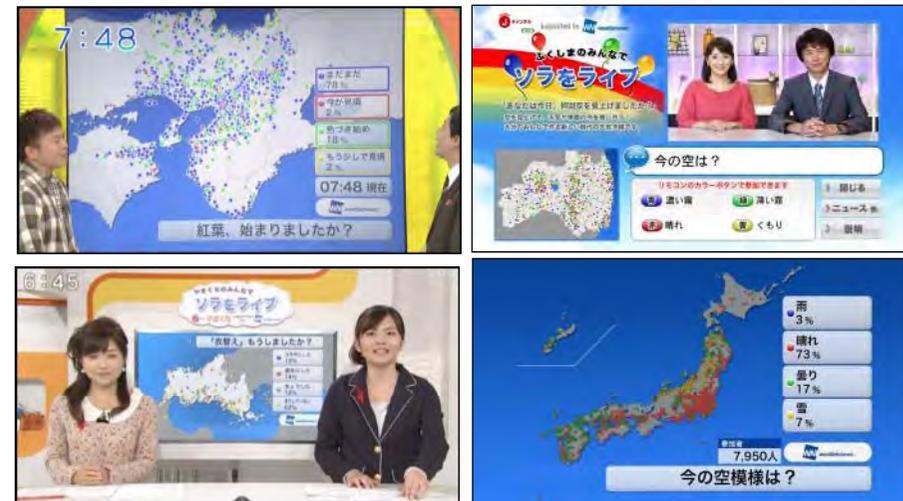
26期通期レビュー:B to S市場(個人・分衆向け)

スマートフォン向けアプリケーション「ウェザーニュースタッチ」のダウンロード数が700万を突破。有料メニューの充実にも注力。放送局と視聴者とウェザーニュースの三者で創る天気コーナー「ソラをライブ」も全国15局に拡大。

ウェザーニュースタッチダウンロード数と有料メニューの充実



視聴者参加型の天気コーナー「ソラをライブ」15局に拡大



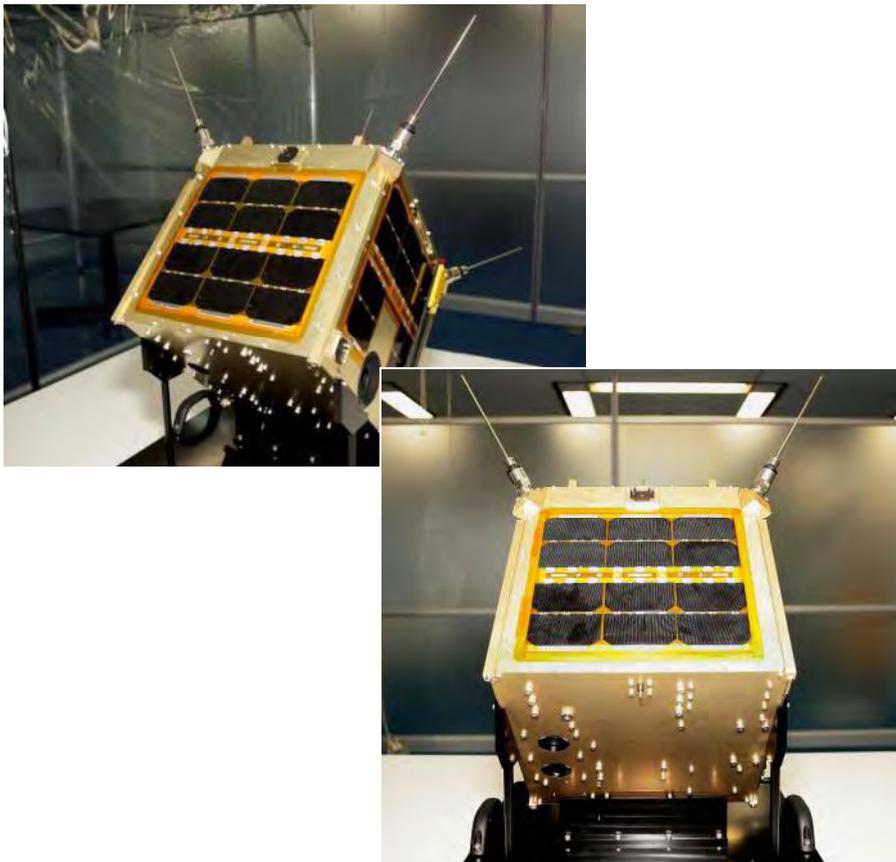
有料メニューはスマートフォンならではの機能を活かしたコンテンツを展開。



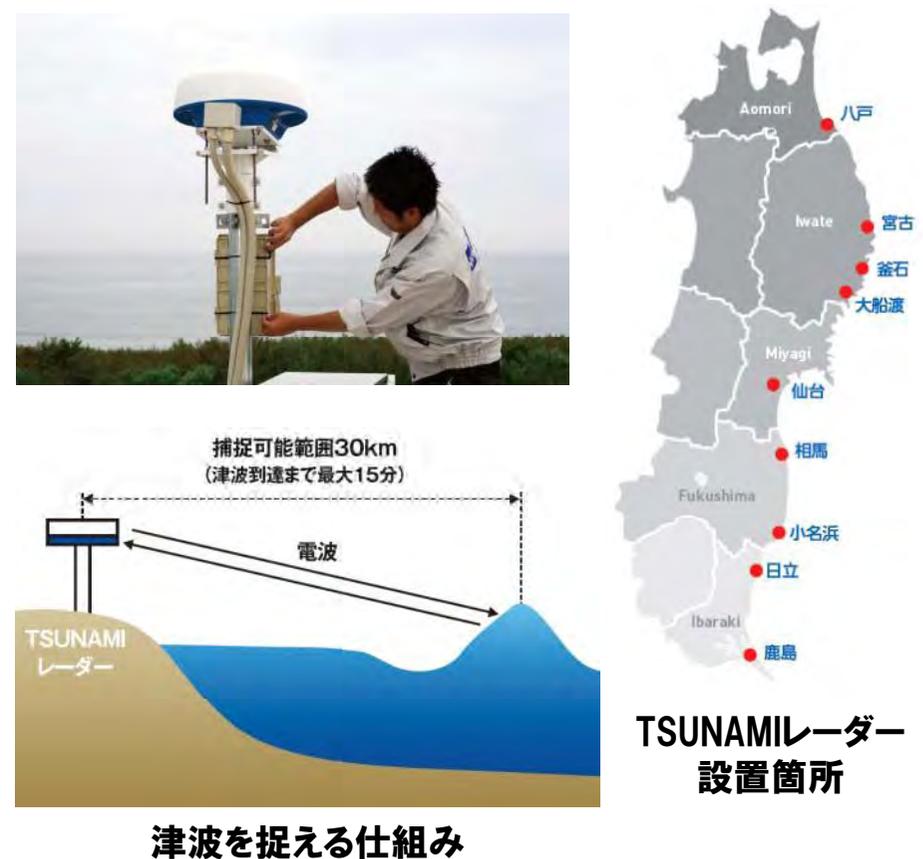
革新的なインフラ・技術への取り組み

北極海航路支援のため、北極海の海氷を観測する民間初の超小型衛星「WNI衛星」が完成し、2012年9～11月にロシアから打ち上げ。
また、津波を観測するTSUNAMIレーダーは、東北～北関東に計9箇所設置、3月からサービスをスタート。

WNI衛星



TSUNAMIレーダー



津波を捉える仕組み

■第三成長期の期間

2004年6月(第19期)～2012年5月(第26期)

■経営上のテーマ

健全性

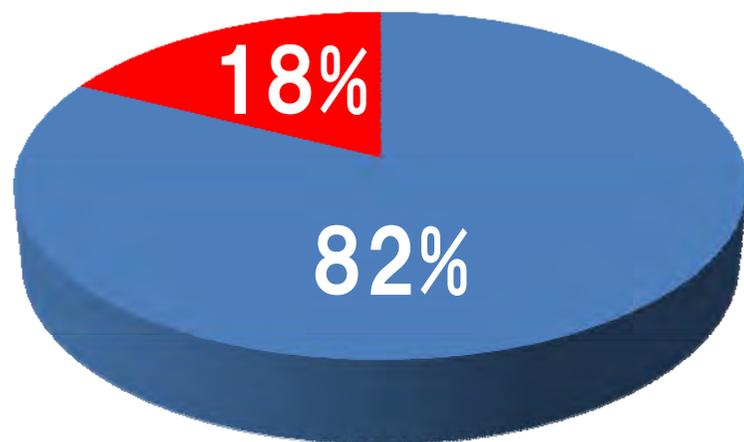
■「健全性」を達成するための重点項目

- 1: トールゲートビジネスモデルの浸透
- 2: 重点事業(交通気象、モバイル・インターネット)への集中
- 3: 運営体制の見直し(グローバルセンターに集約)
- 4: 価値創造のための革新的インフラ展開の開始

トールゲートビジネスモデルの浸透 → 収益体質の改善

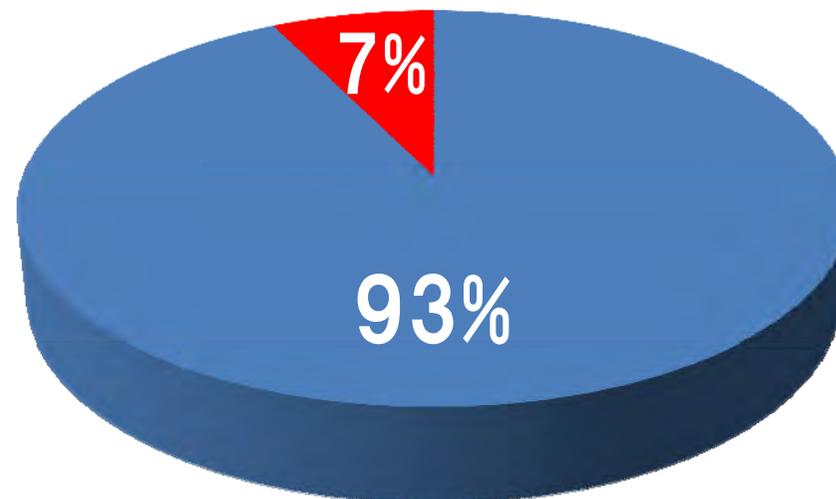
■ :トールゲート ■ :SI

18期



売上:11,135百万円

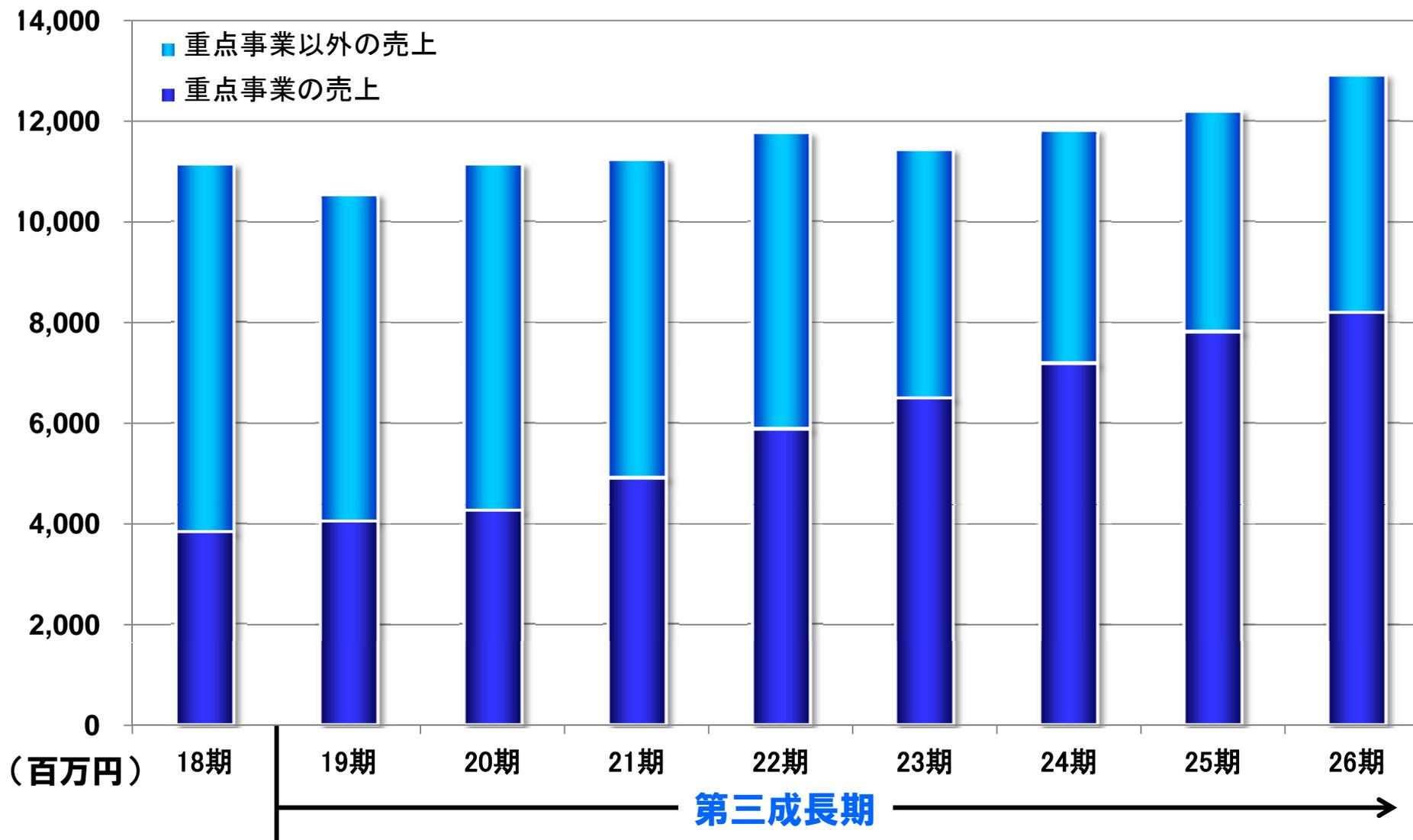
26期



売上:12,911百万円

第二成長期の最終年(18期)と第三成長期のトールゲートとSIの比較

重点事業への集中 → 安定した売上成長



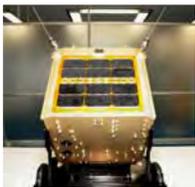
重点事業の売上と総売上への推移

第三成長期のレビュー(3)

運営体制の見直し → 新サービスを積極的に提供可能な運営体制



革新的インフラ展開の開始 → 新たな価値創造サービス提供

インフラ名	目的／概要	対象市場
WNI衛星 	<ul style="list-style-type: none"> 北極海を航行する船舶の安全を支援するために、北極海の海氷を観測する超小型衛星を本年9～11月にロシアから打ち上げ予定 	海運
WITHレーダー 	<ul style="list-style-type: none"> ゲリラ雷雨を始めとする、局地的な気象現象を捉えその対応策情報を提供することを目的に展開 2009年から本格始動、現在日本全国に75箇所に設置 	道路、鉄道、航空、ダム、自治体、個人
TSUNAMIレーダー 	<ul style="list-style-type: none"> 気象会社の「使命」として、津波をレーダーで捉える取り組みを震災発生直後から始動 現在東北～北関東の沿岸9箇所に設置。今後もさらなる展開を予定 	港湾、道路、鉄道、自治体、他
WITHセンサー 	<ul style="list-style-type: none"> 日照、紫外線など精度の高い6種類の気象データを観測する観測機を設置 2010年から本格始動、現在日本全国に3,000箇所設置 	個人、道路、鉄道、他

⋮

第四成長期へ

Service & Infra Company
WITH the Supporter



■第四成長期の期間

2012年6月(第27期)～2022年5月(第36期)

■経営上のテーマ

革新性

■経営上の重点項目

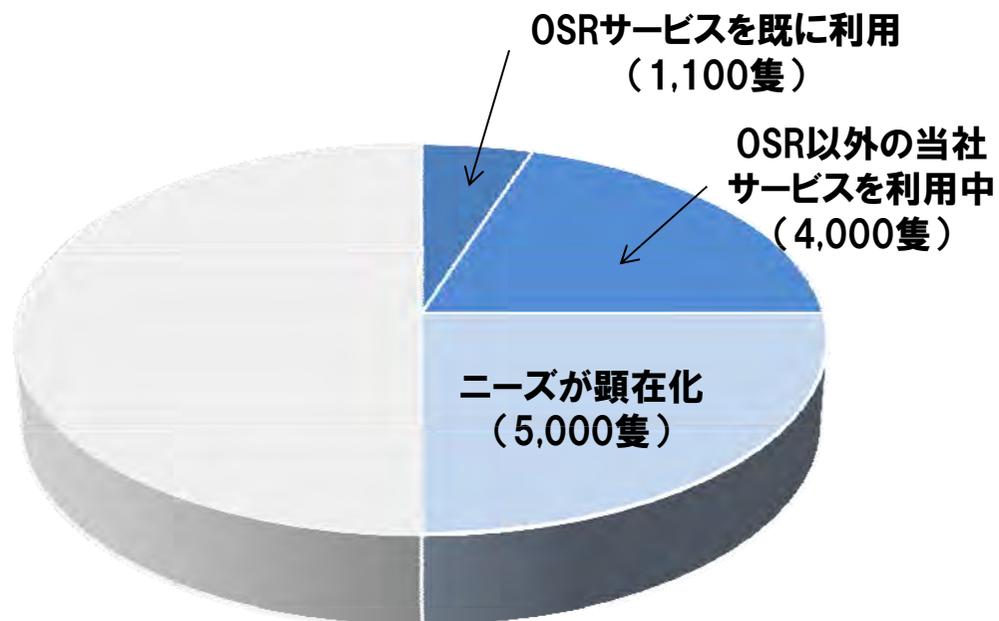
- 1: 航海気象の1万隻へのOSRサービス展開
- 2: 空と陸の交通気象のグローバル展開
- 3: ウェザーリポーターネットワークのグローバル展開

第四成長期の経営上の重点項目



**重点事業(交通気象、モバイル・インターネット)は継続。
革新的なインフラ展開はマーケットと併走。**

航海気象の1万隻へのOSRサービス展開



OSRサービス対象2万隻のうち、第四成長期中に展開する1万隻の内訳



計100億円がターゲット

空の交通気象(航空気象)



計20億円がターゲット

陸の交通気象(道路・鉄道気象)

道路気象



鉄道気象



計40億円がターゲット

第四成長期の経営上の重点項目

1億人の
ウェザリポーター
ネットワーク

A world map with various weather icons (sun, clouds, rain, snow, wind) and a cloud containing text. Dotted lines connect the cloud to various locations on the map. The map is green and blue, representing land and water. The background is a blue sky with white clouds.

モバイル・インターネットは、70億人の情報交信台に向けて
1億人のウェザリポーターネットワークを実現

第四成長期の最初のグローバル展開エリア

ニーズが顕在化している、韓国、中国、台湾から



- 引き続き、航海気象(OSRサービス)のグローバル展開
- 空・陸の交通気象は、無常識なインフラと並走型でアジアから開始

(百万円)

	26期 (2011.6-2012.5)		27期 (2012.6-2013.5)		増減
	上半期	通期(計画)	上半期	通期(計画)	(通期比)
売上全体 (B to B 法人向け市場) (B to S 個人向け市場)	6,305 (2,918) (3,386)	12,911 (6,241) (6,670)	6,400 (3,200) (3,200)	13,500 (7,000) (6,500)	589
営業利益	1,320	2,903	1,400	3,300	397
経常利益	1,200	2,788	1,400	3,300	512
純利益	776	1,719	900	2,000	281

